日々、チャレンジを実践！
仕事を通して、いきいきと輝く女性たち

“モノづくりのまち”として知られる東大阪に企業が集まり、高い技能を結集して人工衛星を打ち上げる計画を進めている「東大阪宇宙開発協同組合（Astro-Technology SOHLA）」。そこで働く女性スタッフの皆さんに、学生たちがインタビューを行い、仕事に対する意欲や、チャレンジすることの大切さについてお話をうかがいました。

SOHLAスタッフの皆さん。左から、野田晴子さん、小林千里さん、菊池秀朋さん、松岡尚美さん。

「今でこそ、ようやく技術職として開発業務に専念できる体制が整いつつありますが、最初は本当に大変だったんです」と、研究員の小林さん。SOHLA設立翌年から新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の委託事業がスタートし、膨大な事務作業を同時にこなさなければならなくなった。急きょ人材募集が必要となったが、「経歴や資格・スキルなどは問わないので、とにかく人物本位で柔軟性のある人を探してほしい、と組合員企業の方にお願いしました」

そこで白羽の矢が立ったのが、今では事務処理から経理一切を取りしきっている野田さん。「出産退職してからは、ほぼずっと専業主婦でした。ブランクが長かったので、パソコンも一から覚え直し。経理の経験もほとんどなかった。でも、必要に迫られれば勉強するものです。とにかく人が足りない状況だったので、私がやらなければ、という責任感もありました」

そして今年からスタッフに加わった松岡さんも、「ひとつの大きな目標に向かって進んでいる、という連帯感や責任感が、一人ひとりの前向きな積極性につながっているんでしょうね」と語る。「子どもがいるから無限に残業はできないなど、大変なことはたくさんありますが、家庭と仕事を両立させなくては、と考えすぎるとかえって身動きできなくなる。がむしゃらに走りつづけてきたのが、結果的によかったのかもしれませんね」

人工衛星という一見途方もなく大きな“夢”を、現実のものにしようと日々努力を重ねている皆さんは、意外にもごくごく普通の女性たち。大学で航空宇宙工学を学び、恩師の紹介を受けて『おもしろそう』と本プロジェクトへの参加を決めた技術職の小林さん、その強力な助っ人として登場した野田さんと松岡さん。それぞれの経歴や専門領域、家庭環境などは違っても、みんなが労を惜しまず一致団結する楽しさがにじみ出ている。壮大な夢への第一歩も、目の前にある小さな課題の一つひとつにチャレンジしていくことの積み重ねであると感じさせる、実に魅力的な職場だった。

これからの社会を担うのはわたしたち

とってもチャレンジ精神旺盛な市民の皆さんや働く女性たちの姿に、おおいに刺激を受けた学生たち。将来の自分たちの働き方や理想とする職場環境について、意見を出し合ってもらいました。

学生たちに聞く「こんな職場が理想！」

- 育児や親の介護など、家庭の事情を考慮してくれる
- 社員の資格取得を応援してもらえる
- セクハラや、昇進・仕事内容などで男女差別がない
- 仕事に対し自主的にチャレンジさせてもらえる
- 社内に託児所がある・育児の支援策が整っている
- 休暇などの福利厚生が整っている
- 職場の付き合いや残業が少ない・転勤が少ない

●将来、子どもができても、妻にはずっとフルタイムで働きつづけてほしい。家事や育児は自分も半々くらいで分担するつもり。従兄が子どものことで会社を休む時、冷たい目で見られたと聞いたので、女性だけでなく男性社員の育児参加にも理解のある職場がいいと思います。（4年・男）

●やりがいのある仕事をしながら、家庭生活と両立できる環境が整っている職場が理想。個人の能力や適性ではなく性別で仕事内容が固定されていたり、新しい制度を取り入れることに消極的で変化を嫌う会社には、魅力を感じません。（修士課程1年・女）

一人ひとりの思いが社会を動かす

「家庭を大切にしつつキャリアもしっかり積んでいくのが理想だけど、現実的には“出産→退職→パートタイム”というコースもやむを得ないのかも・・・」という声が、男女とも多く聞かれました。勤務時間や休暇などの制度面がいくら整っていても、まだまだ十分に利用されていないのが現状のようです。今回お聞きした皆さんの声・・「もう一度」「もっと」・・それぞれの想いが実現できる社会。そんな社会をめざし、私たち一人ひとりが意識を変え、真剣に取り組んでいくことが大切なのではないでしょうか。